



鹿骨東小学校



「和をもって貴しと為す」

江戸川区立鹿骨東小学校

校長 中田 伸代

穏やかな快晴の空のもと、令和5年が始まりました。あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

さて、昨年の今年の漢字は「戦」でした。ご存じの通り年末年始も、ウクライナでは戦争が続き、コロナとの戦いも終わってはいません。「戦」という字が1年を象徴するというのは、とても残念な気がいたしました。そこで、新年の最初の学校便りですので、今回は「和」という漢字に注目したいと思います。

「和」には「おだやか、なごやか、のどかなこと。仲良くする、合わせること。うまくまざること。」などの意味があります。(広辞苑より)「平和」や「令和」にも使われているように、とてもすてきな意味を持つ文字だと思います。この「和」を大事にしたのが、法隆寺を立てた聖徳太子が、604年に制定したといわる、日本最初の憲法である「17条の憲法」です。これは政治を行う上での役人の心構えを書いたものですが、その第一条には「和を以て貴しとし、忤ふことなきを宗とせよ・・・。(和をもってとうとしとし、さからうことなきを宗とせよ・・・。) 意味は「お互いの心が和らいで協力することが貴いのであって、むやみに反抗することのないようにせよ。それが根本的態度でなければならぬ。ところが人にはそれぞれ党派心があり、対局を見通しているものは少ない。だから君主や父に従わず、あるいは近隣の人々と争いを起こすようになる。しかしながら、人々が上も下も和らぎ、睦まじく話し合いができるならば、事柄はおのずから道理にかなない、何事も成しとげられないことはない。」ということだそうです。(「日本の名著 聖徳太子」中央公論社より) 聖徳太子の政治の理想を説いたものですが、学校でも社会でも大切にしたいことは同じではないかと考えます。

地域・保護者の皆様から、年末に学校評価をしていただきました。児童・教職員の分も合わせると様々な意見が届いています。同じことに対しても見解の相違があります。しかし、「子供たちの幸せと成長のために」「子供たちの安心・安全な環境を守るために」といった「子供たちのために」良かれと思つての意見であることには変わりありません。ですから、常に「子供ファースト」の視点を忘れずに、子供たちのために良いと思うことを教員たちと話し合い、知恵を出し合いながら行っていこうと考えます。コロナ禍で3年目。まだまだ、対策は必要です。教科担任制や講師の授業があり、行事のために大幅に授業をカットすることや、体調面に配慮をしながら、多くの行事をこなすことは難しくなりました。しかし、子供たちのために行事の形を変えてもやってあげたい内容は行っています。コロナ前から続けてきた「ふるさと学習」のような地域とのつながりの中で大切なものと、教科担任制やICTの活用、外国語の学習といった新しく取り入れていくものを「和やかに」うまく合わせながら、そして新学習指導要領で目指す「対話的な学び」も取り入れながら、子供たちに負けず大人も「対話」を重ねながら、「穏やかに」「和やかに」鹿骨東小学校のよりよい姿を模索していく。そんな1年になるよう、「和」を大切にしていきたいと思います。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



左の写真は、本校ふるさと学習で5年生がお世話になっている、しめ縄の池田先生から学校にいただいた宝船です。見ているだけで元気が出てきます。地域の方に見守られ、支えていただいている、鹿骨東小学校。教職員一同、今年も、頑張っていきたいと思います。

